

2012



平成24年7月 発行

No. 87

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2番23号 佐々木方

TEL・FAX 018(833)2525
発行者 佐々木 民 秀
編集者 鈴 木 裕 子

平成24年度 秋田支部総会

公益社団法人 日本山岳会秋田支部総会開催

平成二十四年度秋田支部総会は、公益社団法人として、四月七日午後三時から、秋田市の「協働大町ビル」において開催された。

鈴木事務局長の進行によって始まり、会員総数六十七名の内、出席会員二十名、委任状提出会員三十九名を確認。はじめに佐々木支部長から、公益社団法人に移行したことについて、支部で出来ることを出来る範囲内で行う事とし、運営にご協力をお願いする等との挨拶があった。

続いて、鈴木副支部長を議長に指名して、案件の審議が行われた。
案件一 平成二十三年度の事業について鈴木事務局長が報告。支部山行として中国・延辺市側からの「長白山登山」春は神宮寺岳から伊豆山縦走、秋は高山、高岩山の実施。公益的事業として太平山前岳歩道の刈り払い、及び案内板設置。会報の発行、支部長会議、事務局担当者会議、本会総会並びに年次晩餐会への出席等の報告。

案件二 平成二十三年度収支決算について杉山会計担当が報告。高橋会計監事から、四月四日、秋田市のアルヴェにおいて行われた会計監査の結果、関係書類が適正に処理されていることが報告され、事業及び決算は承認された。

案件三 平成二十四年度事業計画に

ついて鈴木事務局長が説明。支部山行として、台湾・北大武山、春、秋の里山山行、自然保護全国集会、本会通常総会、年次晩餐会、支部長会議等への出席。公益的事業として、太平山中岳歩道刈り払い、太平山山開き市民登山への協力等。

案件四 平成二十四年度予算案について杉山会計担当から、本会の助成金・補助金が、本年度からその支出について制約されること等が説明され、事業計画、予算案ともに承認された。

案件五・案件六 鈴木事務局長から本年四月一日に公益社団法人へ移行することから、三月上旬までに新規約、及び支部長予定者の報告をするよう本会から指示があり、二月二十二日に役員会を開催し、支部規約、役員について審議し、総会で承認をお願いすることとしたとの説明があり、規約、役員ともに、承認された。

二十四・二十五年度の役員は次の通り。

- 名譽顧問 保坂隆司 進藤 昭
- 顧問 長岩嘉悦 安東武俊
- 支部長 佐藤昭義 北林嘉鶴子
- 副支部長 佐々木民秀
- 事務局長 鈴木要三 今野昌雄
- 鈴木裕子
- 会計担当 杉山雄幸



平成24年度秋田支部総会

総会は午後四時に終了し、引き続き行われた懇親会では、鈴木副支部長の乾杯の発声で始まり、久々の顔合わせに、新法人へ移行したことでのこれから、新法人へ移行したことで、春山山行への期待、会員の個人山行情報等、四方山話で盛り上がり、午後九時頃、寺田会員のお開きの乾杯で散会した。

- 委員 福田光子 柳田勇悦
- 鎌田倫夫 佐藤 博
- 堀井 弘 石川 祐子
- 柴田 勲 伊藤秀雄
- 杉山雄幸 三浦真六
- 安藤金栄
- 高橋忠雄 大山健助

お礼

次の方々から「芳志を頂きました。厚くお礼申し上げます。進藤 昭 一万円、安藤武俊 五千円、佐藤昭義 五千円、佐々木民秀一万円、北林嘉鶴子 四千円、伊藤秀雄 四千五百円

清酒 今野昌雄 佐藤和志 鈴木裕子 石川祐子
出席者(順不動)
佐々木民秀 北林嘉鶴子 福田光子
今野昌雄 鈴木要三 杉山雄幸
大山健助 鈴木裕子 堀井 弘
佐藤 博 高橋忠雄 寺田新一
石川祐子 柴田 勸 佐々木長秀
安藤金栄 熊谷光子 後藤浩二

総会のみ出席 真坂洋一 伊藤秀雄
親会のみ出席 佐藤和志 小笠原義雄

公益社団法人へ移行

平成二十四年四月一日から「社団法人日本山岳会」から「公益社団法人日本山岳会」に移行します。これに伴い、秋田支部も「公益社団法人日本山岳会秋田支部」となり、規約も改正されました。

公益的事業を行うことが義務となりましたが、秋田支部としては、これまでのように、楽しく、出来る範囲内で、市民登山のサポート等を行いたいと思っております。

「山」四月号で、公益法人化の狙いとこれからの日本山岳会の取組方針について、尾上会長が纏めて述べておりますのでご参照ください。

台湾五岳登山を終えて
北大武山山行報告

佐々木 民秀

秋田支部では、これまで支部山行として台湾の南湖大山、玉山、雪山、秀姑巒山の登山を終えている。この度、残りの一つの台湾南部に聳える北大武山(三〇九〇m)を十三年ぶりに再度計画。支部会員五名、五月七日から八日間の日程で実施し、念願の台湾五岳を完登した。
七日、羽田空港を飛び立ち、台北・松山空港で林照雄氏ご夫妻とガイドの林宗儒さんの出迎えを受け、ホテルで荷物の整理後、林ご夫妻の案内で賑やかな「夜市」を見物する。
八日、台北から専用車で高速道路を高雄に移動し、秋田県田沢湖と二十五年前に姉妹湖の提携を結び、辰子飛翔像の立つ澄清湖を散策する。
九日、山岳ガイドの林哲全さん(中華山岳協会資訊組長)と王主任さん(同指導員)の案内で二台の四輪駆動車に分乗して出発。泰武分駐所で許可証のチェックを受け登山口へ。ここでポーターに荷物を預け、巻き道を経て旧登山口へ。その先、0.5kごとの標柱に導かれ、ヒノキの大本が茂る立派なテント場のある檜谷山荘(収容六十名)に着く(歩行六時間程)。ここには側溝風のトヨに引水した快適な水洗トイレがあった。
十日、午前四時過ぎ、山荘を出発。鬱蒼たる巨木の中を急登とトラバースを繰り返しながら登り、「神木」と「水場」を経て主稜線に出る。南に連なる稜線の先には南大武山(二八四一m)があるが、廃道となっていた。
ここから北へと向かうが、濃いガスとやや強い風の中を大武祠(高砂義勇軍記念碑と大武の小神社がある。)に至り、その先数回の登り下りを繰り返して、十時三十分頃、露岩でピークを成す一等三角点の北大武山頂に着き、当支部念願の台湾五岳登山を喜びあつた。



北大武山頂

山頂部のみが薄いガスの中で、記念撮影後、大武祠に戻る。ここで昼食中、心配していた雨が降り出し、檜谷山荘まで雨の中を下る(往復十三時間程)。(この日、雪山で外国人二名落雷で死亡している。)

十一日、昨夜から雷鳴りやまず、激しい豪雨、本格的に梅雨入りとのこと。早朝、小雨の中を山荘出発。途中、サルの群れやキジ、カモンカ、それとヒルまでも観察しながら登山口に無事到着。高雄に戻り、昼食後林、王の両山岳ガイドと別れ、ガイドの林宗儒さんの案内でフェリーに乗り、旗津に渡って観光する。
十二日、高雄港を望む寿山公園や蓮池潭の寺廟群、高雄市場等を見学し、新幹線で「母の日」で賑わう台北に戻る。

十三日、旧知の林照雄氏の案内で陽明山(七星山)へ。立派に整備された石敷きの登山道を一時間二十分かけて一等三角点のある台北市最高峰の七星山(一一二〇m)へ。この先、三等三角点の東峰を経て冷水抗登山口に下山。好天の下に眺望を十分に楽しんだ。
想えば、過去に何度も雨天で登れず、今回は、好天に恵まれ四度目にしてようやく登ることができ感無量であった。

下山後は、北投温泉(駅舎など街並みは以前とは大幅に変貌し、温泉プールや資料館等があり、賑わっていた、故宮博物院へ)。
夜は林氏宅で奥様のお手料理で五岳完登の祝宴をして頂いた。

翌十四日、ホテルまで見送りに来ていただいた林氏と再会を約し、無事に帰秋した。

振り返るに、平成十一年に秋田支部設立四十周年記念事業として企画した五岳最後の北大武山(大霸尖山と共に)は、実施直前の台湾大地震により中止。十三年は台風十六号の大被害、十五年には鳥インフルエンザ流行と、立て続けに中止となっていただけに、この度の登頂には格別な思いを感じている。これまでの台湾への登山は、その都度お世話になっていた林照雄氏の手配で実施してきたが、氏は健康上の理由で高山への登山は控えており、この度は、台湾山岳の色々な資料を提供してきたアルパインツアー社へ手配を依頼した次第である。

最後に、これまでの台湾山行へ参加された各会員はじめ、台湾岳人、協力いただいた支部会員に心から感謝の意を表します。



陽明山七星山山頂



林照雄氏宅で

台湾五岳

- 南湖大山 (3742m) 平成 6 年
- 玉山 (3952m) 平成 8 年
- 雪山 (3886m) 平成 8 年
- 秀姑巒山 (3860m) 平成 11 年
- 北大武山 (3092m) 平成 24 年

五岳登頂者
佐々木民秀 鈴木裕子

参加者

- 佐々木民秀 今野昌雄
- 鈴木裕子 佐々木長秀
- 会員外 藤田正義

太平山山開き 市民登山に協力

六月十二日、毎年六月第二日曜日に開催される秋田市、五城目町、上小阿仁村で構成される「太平山県立自然公園整備促進地域協議会」主催の山開き清掃登山にサポートとして協力。

秋田市からは一般参加者三十四名程が三班編成で旭又コースから登る。上小阿仁村からの萩形コースは道路崩壊箇所があり、村からの参加者も旭又コースから登り、賑やかであった。小雨が降る時間帯もあったが、時折陽も射し、暑からず寒からずの登山日和、ヒメシヤガやシラネアオイ等の花々が登山道脇に現れると参加者は大喜びであった。

山頂神社で安全登山祈願祭が行われ、天候を心配して早目の下山。最後尾に時間をとられたが、事故も無く無事に全員下山した。

参加者

- 佐々木(民) 柳田 鎌田 堀井
- 鈴木(裕) 安藤(金) 福田(光)
- 今野(昌) 伊藤(秀) 長岡 石川
- 柴田(勲) 佐々木(長)
- 会員外 柴田(路)

訂正

- 八十四号 一頁上段 議長
- 今野(昌)支部長を柴田委員に訂正
- 八十六号 四頁上段年次晩餐会参加者
- 高橋浩二を高橋洋二に訂正

◎本会第一回通常総会終える

平成二十四年六月十六日、午後二時から東京都千代田区・主婦会館プラザエフにおいて開催。

平成二十三年度事業報告、収支決算・財産目録承認の件、二十四年度除籍予定者の件について審議し、原案通り承認された。

※支部長会議 秋田支部欠席

会員数情報

平成二十四年度六月通常総会時

◎会員数 五〇五六名

名誉会員 一八名

永年会員 二八四名

終身会員 一一三名

通常会員・他 四六四一名

平成二十三年度の増減

新入会員 一七四名

復活会員 二名

物故会員 五一名

退会者 一四一名

除籍者 四一名

秋田支部会員 六十七名
(平成二十四年四月末現在)

支部里山山行 四つの山 太平山巡り

鎌田 倫夫



太平山の石碑のある館山

五月二十七日(晴)
 集合場所の上小阿仁を八時三〇分に、参加者十名が三台に分乗して出発。大館市北部の白沢より県道に入ると、白沢郵便局の北側に白沢神社がある。空地に駐車して少し進むと、杉林の中に鳥居があり、それが一つ目の山、館山への参道になっている。
 道は荒れているが森林伐採直後であり、急斜面を迷わず登れる。南峰は岩山になっており、太平山碑が祀られている。高い方は北峰であり、地図に記名の無い館山(二四〇m)である。

二つ目は、男神山。矢立小学校前を通り、粕田地区へ向かう。登山口には男神山神社があり、参拝して、神社の脇から高圧線沿いに登る。鉄塔を過ぎて直ぐ右折すると急な登りがある。ここにもまた太平山碑が祀られている男神山(三四〇、七m)の山頂峰である。国道七号線から女神山(二八二m)と並んで二つの三角峰が眺められるその一峰である。
 下山して、駐車場として借りていた地区の集会所前で昼食とした。いつものように皆さん持参のご馳走が振る舞われた。
 三つ目は、中山。白沢地区まで戻ると変電所の脇に「中山登山口」の看板がある。隣が空き地になっていて駐車には余裕がある。貯水池の土手を通るのだが、下山時にはこの土手でワラビを大収穫することになる。参道は広く刈り払いされていて、村祭りの後なのか、照明用の電気コードが山頂まで引かれていた。
 山頂(一五八・四m)には鳥居と太平山碑が祀られている。
 四つ目は、獅子ヶ森。釈迦内地区まで戻り、大館市郷土館の北の登山口から登る。赤松混じりの雑木林を登り、尾根の分岐に出る。右に進むと山頂、左に進むと権現岩である。



男神山頂上

獅子ヶ森(二二四・七m)の山頂は狭く、太平山碑が祀られていて、大館盆地南西の展望が開けている。分岐まで戻り権現岩へ。その大きさに圧倒される。
 帰路、上小阿仁村の道の駅で解散となった。

参加者

- 佐々木(民) 高橋(忠) 鎌田
- 石川 柴田(勲) 伊藤(秀)
- 佐々木(長) 佐々木(悦)
- 会員外 柴田(路) 永田

※ 本年三月、大館市で発行した「大館トレイルガイド」大館の山を歩く人のためのガイドブックを参考にして、太平山碑のある山を選んだ。

会務報告

◎第二回役員会

二月二十二日(水) 午後六時から県民会館(ジョイナス) 研修室で開催。四月一日から公益社団法人に移行するため、その準備として、三月下旬までに、新法人としての秋田支部規約及び支部長選任予定者の報告を求められているので、平成二十四年度総会案件とともに審議した。

・新規約については、本会から提示されたものを基本にして、現行の支部規約と合わせて検討した。

・支部長予定者及び役員については、これまでの新法人移行についての経緯を掌握していることから、本会及び支部の諸事務が流れに乗るまで、現体制がよいとの考えであった。

・新規約、役員ともに、役員会で承認した経緯を総会で説明して、承認を得るといったことになった。

・総会案件は、二十三年度事業報告及び決算報告、二十四年度事業案の共益的事業の支部山行については、台湾・北大武山、春、秋の里山山行、公益的の事業については、市民登山のサポート、太平山中岳歩道の刈り払い等が提案された。

・その他

出席者

- 佐々木(民) 今野(昌) 鈴木(裕)
- 福田(光) 杉山 堀井 伊藤(秀)
- 柳田 鎌田 佐藤(博) 石川
- 柴田 三浦(真) 安藤(金)
- 高橋(忠) 大山(健)